

平成24年度「特別支援教育総合推進事業（特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究）」報告書

団体名	山口県
研究開始年度	平成23年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校種	学校名（ふりがなを付すこと）
公立	特別支援学校	<small>やまぐちけんりつとくやまぞうごうしえんがっこう</small> 山口県立徳山総合支援学校
公立	特別支援学校	<small>やまぐちけんりつやまぐちぞうごうしえんがっこう</small> 山口県立山口総合支援学校

2 研究テーマ

- 関係機関と連携した、自閉症の特性に応じた教育課程の編成と効果的な指導や支援の在り方
- 自閉症の特性に応じた、小学部・中学部・高等部を一貫した柔軟な教育課程の編成の在り方

3 研究の内容

(研究内容)

- 自閉症のある児童生徒の教育課程の現状と課題の整理
 - ・ 校内及び近隣の小・中学校特別支援学級との連携等による授業実践上の課題の把握
 - ・ 関係機関や保護者等の参画を得た研修や事例検討等による教育的ニーズの把握
 - ・ 個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用した一貫した指導・支援の検討
- 外部人材の参画による授業公開及び事例検討等の実施による指導方法等の改善
 - ・ 各教科等の指導における自閉症の特性に応じた指導方法等の改善
 - ・ 将来の家庭生活や職業生活に向けた早期からの連携した支援や配慮の検討
- 自閉症の特性に応じた教育課程の編成
 - ・ 先行研究の成果を活用した児童生徒の実態把握や指導内容の整理
 - ・ 自閉症の特性に応じた学習集団の構成や実態に合わせた指導内容の設定及び学習環境づくり
 - ・ 自立活動を中心とした授業実践による自閉症の特性に応じた指導内容の検討
- 先進校等視察
 - ・ 自閉症の特性に応じた特色ある教育課程の編成及び実践
 - ・ 自閉症の特性を踏まえた授業改善の工夫等の情報収集

(評価の観点及び評価方法)

評価の観点	評価方法
・ 研究事業全般について、研究のねらい、方法は適切であったか。ねらいは達成できたか。	・ 研究推進委員会において、研究のねらい、方法、達成度等について評価を行う。
・ 外部専門家等の参画等により、指導方法等の改善、教職員の専門性への意識の深化が図られたか。	・ 授業公開、授業研究を行うとともに、教職員、保護者、関係機関等へのアンケートを実施し、評価を行う。

<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校間、地域の小・中学校特別支援学級、関係機関、保護者等との連携協力体制により、指導や支援が円滑に進められたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会、合同研修会を行うとともに、連携の在り方や進め方等について、教職員、保護者、関係機関等へのアンケートを実施し、評価を行う。
---	---

4 研究成果の概要

<p><徳山総合支援学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自閉症の特性に応じた教育課程の編成 <ul style="list-style-type: none"> ・学部毎に自閉症の特性に応じた指導・支援や集団活動の在り方について検討し、自閉症の児童生徒における学習集団の構成等について、学校としての見解をまとめることができた。 ・小学部生活単元学習の内容について、自閉症のある児童と自閉症のない児童について比較し、指導内容の違いについて、学校としての見解をまとめることができた。 ○特別支援学校間、地域の小・中学校特別支援学級、関係機関、保護者等との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・NPOや特別支援学級担当者等の地域人材を活用した授業研究を重ね、在籍する児童生徒の実態を踏まえた指導実践を積み重ねることができた。 ・休日支援等、保護者との連携における家庭支援の在り方において、課題を残した。 ○外部専門家の参画による指導方法等の改善、教員の専門性向上および地域への情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・自閉症の特性や指導方法について、外部専門家の助言をもとに生活単元学習や自立活動の指導に関する授業改善を進めることができた。 ・学部間における情報交換会やWebページによる研修内容の情報発信等、校内外で情報を共有する体制を整えることができた。 ・指導の妥当性について、小・中・高等部の一貫性や系統性のある指導内容の設定の在り方について課題を残した。 <p><山口総合支援学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自閉症の特性に応じた教育課程の編成 <ul style="list-style-type: none"> ・平成12年度からの小学部自閉症グループでの実践の蓄積を基盤に、小学部段階から高等部卒業後の自立と社会参加を見通した一貫性のある教育課程について、学校としての見解を整理することができた。 ・小学部を中心に実践を重ねてきた自閉症の指導の在り方について、「障害特性」や「指導理念」を全校で共通理解することができた。また、自閉症の特性に合わせた指導ツールや支援システム等、学校としての指導体制を整備することができた。 ○外部人材の参画による授業公開及び事例検討等の実施による指導方法等の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討をとおして、外部専門家のコンサルテーションの有効性を確認することができた。 ・事例検討をとおして、自閉症のある児童生徒の具体的な指導目標の設定や障害特性に応じた支援や配慮のポイント等を明らかにすることができた。 ・外部専門家の助言をとおして、自閉症の特性に応じた学習環境の整備、教材や指導方法の工夫等の授業改善を進めることができた。 ・支援の一貫性や妥当性を高めるツールとしての個別の指導計画の有効性が確認できた。 ○特別支援学校間、地域の小・中学校特別支援学級、関係機関、保護者等との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校や特別支援学級で成果のあった指導・支援内容や課題を残した困

難事例について、意見交換や情報共有を行うなど、地域における自閉症のある児童生徒の教育課程の現状と課題を整理することができた。

- ・ 専門家や関係機関、保護者等の参画を得た研修や事例検討等により、自閉症の児童生徒に関する地域や家庭での教育的ニーズを把握することができた。
- ・ 地域における外部専門家に関するリソースを中心としたネットワークを構築することができた。また、効果的な活用の方法について、連携内容や連携方法、校内での手順や役割分担について、校内で共通理解することができた。

○先進校等視察

- ・ 自閉症のある児童生徒への教育に特色のある特別支援学校の取組が、コミュニケーションや社会性に関する指導内容を検討する上で参考になった。